

救命手当で命の尊さを実感!～後世に伝えるこの経験～

2017年10月中旬に、まちづくりセンターで体を動かし、その休憩中に70代の男性が意識を失い、心肺停止状態になりました。男性は所属する総合型地域スポーツクラブ「Bay Walk Community はこだて」の活動中で、その場にいた会員とまちづくりセンタースタッフが連携して、胸骨圧迫などの心肺蘇生を行い、まちづくりセンターにあったAEDを使用し、救急車が来るまでの約5分間、救命処置を行いました。

救急車到着後は、救急隊が男性に対し、救命処置を行い、救急車で病院に運ばれました。搬送中に、心臓が動き出し、男性は一命をとりとめました。

病院に到着後は、会話ができるまでに回復していました。



救命処置に携わった6人に、消防協力者として、函館市消防本部から感謝状が贈られました。(表紙の写真は、感謝状授与式の様子です)

～連携して、救命処置をした協力者の感想・コメント～

・Bay Walk Community はこだての会員より

救命処置を施す前に関係者が事前打ち合わせ等する余裕はありませんでしたが、それぞれ救命講習で得た知識や技能を暗黙のものと的確に発揮した結果とします。小沢真一会長

救命講習を受けて良かったと思いました。瀬川正雄さん

落ち着いて出来るように救命講習には度々、参加したいと思います。高橋豊美さん、

チームワークは大切なことです。発作後5分以内でできるように今後にかしたい。芝田稔さん

・まちづくりセンタースタッフより

一人では動揺するであろう事にも、それぞれの動きが連携できたことで、命が助かり本当に良かったと思います。大矢千穂

救命講習会での体験がいざという時の備えとなりました。準備・経験というものの大事さが身にしみました。谷口真貴

・救命講習会などを開催し、救命の裾野を広げる活動をしている特定非営利活動法人 救命のリレー普及会さんより

心肺停止という状態は年齢や性別や場所や時間や国籍などに関係なく誰にでも起こりえる症状です。救命手当は小学生高学年から高齢者まで、誰にでも出来る手技です。救命講習会の受講資格は一つだけ、「やる気」だけです。「大切な家族のため」に、「仲間のため」に、是非、受講してください。救命手当の技能は、全世界に通用するものです。田中正博理事長

AED(自動体外式除細動器)は、電気ショックを与えて心臓の動きを回復する機械です。

日本AED財団のホームページによると、日本では毎日多くの方が心臓突然死で命を失っており、その数は1年間で約7万人。一日に約200人、7.5分に1人が心臓突然死で亡くなっています。心肺停止後のAED使用率はたった4.5%です。勇気を持って一步を踏み出すことで、救われる命が多くあります。と掲載されています。

函館市内でAEDを設置している施設は、函館市ホームページによると、291か所あります。AEDの設置施設は増えてきました。もし倒れた人が心停止状態であると確認したら、施設のスタッフのみならず、その場に居合わせた人が救命処置をいち早くすることで、生存率や社会復帰を高めます。そうすることが、後遺症を残さないためにも重要です。

函館市には、救急車が9台(旧函館市内には6台)あります。救急車が到着するまでの時間は、平均8分です。119番通報をし、救急隊が到着するまでの8分間に何をすれば、いいのでしょうか?

その場にいた人による救命処置がその人の命を助けます。

もし、家の中で倒れてしまったら?

突然の心停止は、いつ、どこで、おこるかわかりません。その備えとして、救命講習会などに参加し、胸骨圧迫やAED操作、異物除去などの救命処置を継続的に学び、いざという時に活動できるよう準備しましょう。

救命講習会はグループや団体などの希望にあわせて開催しますので、お問い合わせください。

お問い合わせ:まちづくりセンター 電話0138-22-9700